

**原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ  
戦略的原子力共同研究プログラム 事後評価総合所見**

<p>研究開発課題名：植物における量子ビーム誘発突然変異の分子機構解明に関する研究</p> <p>研究代表者（研究機関名）：日出間純（国立大学法人東北大学）  再委託先研究責任者（研究機関名）：土岐精一（独立行政法人農業生物資源研究所）  再委託先研究責任者（研究機関名）：坂本綾子（独立行政法人日本原子力研究開発機構）</p> <p>研究期間及び研究経費：平成21年度～平成23年度（3年計画） 90百万円</p>			
項目	要 約		
1. 研究開発の概要	<p>イオンビーム育種は我が国発祥の独創的、かつ世界を先導する技術である。本提案では、これまでランダムで偶発的と考えられてきた突然変異誘発を、目的の変異を高頻度で誘発し、得られる突然変異を制御して効率的な育種素材を創成する技術開発を目指し、植物の量子ビーム誘発突然変異の分子機構の全容を解明する。</p>		
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"><b>B</b></td> <td> <p>・植物細胞に関するDNA修復研究は、動物細胞でのそれに比べて、質・量共に更なる躍進を期待したい分野である。本研究は組み換え技術による変異誘発株と量子ビームを組み合わせることによる高頻度に変異体が得られるシステムの開発に関し、計画に従ったある程度の進捗の足跡が残されており、相応の成果が挙げられている。</p> <p>S) 極めて優れた成果が挙げられている  A) 優れた成果が挙げられている  <b>B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている</b>  C) 部分的な成果に留まっている  D) 成果がほとんど挙げられていない</p> </td> </tr> </table>	<b>B</b>	<p>・植物細胞に関するDNA修復研究は、動物細胞でのそれに比べて、質・量共に更なる躍進を期待したい分野である。本研究は組み換え技術による変異誘発株と量子ビームを組み合わせることによる高頻度に変異体が得られるシステムの開発に関し、計画に従ったある程度の進捗の足跡が残されており、相応の成果が挙げられている。</p> <p>S) 極めて優れた成果が挙げられている  A) 優れた成果が挙げられている  <b>B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている</b>  C) 部分的な成果に留まっている  D) 成果がほとんど挙げられていない</p>
<b>B</b>	<p>・植物細胞に関するDNA修復研究は、動物細胞でのそれに比べて、質・量共に更なる躍進を期待したい分野である。本研究は組み換え技術による変異誘発株と量子ビームを組み合わせることによる高頻度に変異体が得られるシステムの開発に関し、計画に従ったある程度の進捗の足跡が残されており、相応の成果が挙げられている。</p> <p>S) 極めて優れた成果が挙げられている  A) 優れた成果が挙げられている  <b>B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている</b>  C) 部分的な成果に留まっている  D) 成果がほとんど挙げられていない</p>		